日本におけるSaaSの戦略分析

201020610　　顧暁冬

背景と目的

地震多発化の日本においての情報安全

日本は地震が多発する国である。今度の関東大震災で数十兆億円の経済損失を被る。そのほか、サーバなどの情報端末の損害によって、保存された情報の紛失も多くの組織に対して重大な課題になった。[クライアント・サーバ](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AF%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%82%A2%E3%83%B3%E3%83%88%E3%83%BB%E3%82%B5%E3%83%BC%E3%83%90)などの分散処理によるデータの保存管理では最も合理的な解決策だと考えられた。本研究では、クラウドサービスと情報の安全性の視点から、日本における企業組織の情報基幹システムの取り組みについて検討する、クラウドサービスの応用の必要性を明確したい。

研究方法と内容

まず自治体、企業組織を対象として、インタビューとアンケート調査を合わせて日本情報基幹システムの取り組みの現状を調べるながら、今までの情報報基幹システムの取組みの不足点を確認する。その後、クラウドサービスと現有基幹システムの利得を比較しながら、組織からクラウドへの意見と合わせてクラウドサービスの応用の必要性を明確したい。

５月中旬　先行研究の調べ、情報安全性についてのクラウドサービスの特徴の確認

組織インタビュー内容の作成

６月上旬　自力でクラウドを開発できる企業組織　2，3社　インタビュー訪問

７月上旬　自力でクラウドを開発できない企業組織（中小企業）　2，3社　インタビュー訪問

インタビューの内容を基づいて、量的調査内容の作成

８‐９月　（中小企業）１００社　アンケート調査

１０月　　調査内容の統計、日本情報基幹システムの取り組みの現状の確認。クラウドサービスと現有基幹システムの利得を比較しながら、日本におけるクラウドサービス応用の必要性の論証、研究文章の作成。